

草木も生えぬと言われた75年からはや5年、被爆から3代目の駅の開業など広島街は大きく変わり、世界から観光客が押し寄せ、平和と繁栄を謳歌しています。しかし同時に、法と外交を基軸とする国際秩序は様変わりし、剥き出しの暴力が支配する世界へと変わりつつあり、私達は今、この繁栄が如何に脆弱なものであるかを痛感しています。

このような世の中だからこそ、核抑止が益々重要だと声高に叫ぶ人達がいまいます。しかし本当にそうなのか。確かに、戦争をできるだけ防ぐために抑止の概念は必要かもしれない。一方で、歴史が証明するように、ペロポネソス戦争以来古代ギリシャの昔から、①力の均衡による抑止は繰り返されてきました。なぜなら、抑止とは、あくまで頭の中で構成された概念又は心理、つまりフィクションであり、万有引力の法則のような普遍的真理ではないからです。

自信過剰な指導者の出現、突出したエゴ、高揚した民衆の圧力。あるいは誤解や錯誤により抑止は破られてきました。我が国も、力の均衡では圧倒的に不利と知りながら、自ら太平洋戦争の端緒を切ったように、人間は必ずしも抑止論、特に核抑止論が前提とする合理的判断が常に働くとは限らないことを、身を以て示しています。実際、核抑止も80年間無事に守られたわけではなく、核兵器使用手続の意図的な逸脱や核ミサイル発射拒否などにより、破綻寸前だった事例も歴史に記録されています。

②国破れて山河あり。
かつては抑止が破られれ国が荒廃しても、再建の礎は残っていました。

国守りて山河なし。
もし核による抑止が、歴史が証明するよういつか破られて核戦争になれば、人類も地球も再生不能な惨禍に見舞われます。概念としての国家は守るが、国土も国民も復興不能な結末が有りうる安全保障に、どんな意味あるのでしょうか。

抑止力とは、武力の均衡のみを指すものではなく、ソフトパワーや外交を含む広い概念であるはずですが、仮に破れても人類が存続可能になるよう、抑止力から核という要素を取り除かなければなりません。核抑止の維持に年間14兆円超が投入されていると言われていますが、その十分の一でも、核のない新たな安全保障のあり方を構築するためには頭脳と資源を集中することこそが、今我々が力を入れるべきことです。核兵器廃絶は決して遠くに見上げる北極星ではありません。被爆で崩壊した瓦礫に挟まれ身動きの取れなくなった被爆者が、暗闇の中、一筋の光に向かって一歩ずつ這い進み、最後は抜け出して生を掴んだように、実現しなければ死も意味し得る、現実的・具体的目標です。

“諦めるな。押し続ける。進み続ける。③光が見えるだろう。そこに向かって這っていきな。” (THE NOBEL FOUNDATION, STOCKHOLM, 2017 広島県による翻訳※)
這い出せず、あるいは苦痛の中で命を奪われた数多くの原爆犠牲者の無念を晴らすためにも、我々も決して諦めず、粘り強く、粘り強く、核兵器廃絶という光に向けて這い進み、人類の、地球の生と安全を勝ち取るうではありませんか。

上の文章は2025年8月6日平和記念式典での広島県の湯崎英彦知事のあいさつ(一部抜粋)です。これを読んで、下の問いに答えましょう。

注：抑止とは、相手が攻撃してきた場合、軍事的に損害を与える姿勢を示すことで攻撃そのものを思いとどまらせること。

1 傍線部①は、具体的にどんなことで破られてきましたか。本文中から1文で抜き出し、最初の3文字を書きましよう。

--	--

2 傍線部②は「春望」と言う漢詩の冒頭部分です。作者を次の中から選んで記号で書きましよう。

--

㊶李白 ㊷杜甫 ㊸白居易 ㊹王维

3 傍線部③「光」とは何のことですか。本文中から抜き出ましよう。

NIEワークシートのこたえ（2025年8月12日公開）

◆ワークシート「平和記念式典での広島県湯崎英彦知事のあいさつ(社会 国語)」 解答

- 1 自信過
- 2 ①
- 3 核兵器廃絶